

## 平成30年度第1回長南町地域公共交通活性化協議会議録

日 時：平成30年6月27日（水） 13：30～  
場 所：庁舎分館2F第1会議室  
出席者：野口会長、金坂副会長、鈴木（文）委員、平野委員、古市委員、  
秋山委員、大木委員、森川委員、野口（智）委員、長田委員、  
齋藤（祥）委員、宮澤委員、荒井委員、川野委員、石崎委員  
川俣委員（代理）県交通計画課 池田  
山口委員（代理）茂原警察署交通課 重條係長  
計 17名

事務局：（企画政策課）田中課長、三上補佐、松崎係長、風戸  
欠席者：成田委員、鈴木（壽）委員、中橋委員  
計 3名

### 1. 開 会

三上補佐：それでは定刻でございますので、只今より平成30年度第1回長南町地域公共交通活性化協議会を始めさせていただきます。  
本日は、公私とも大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。  
会議を開催する前に、千葉県バス協会専務理事成田委員、社会福祉協議会会長鈴木委員の欠席を報告いたします。  
また茂原警察署交通課長 山口委員の代理といたしまして、交通課係長、重條様の、千葉県交通計画課川俣委員の代理といたしまして交通計画課池田様の代理出席をご報告いたします  
また地域公共交通活性化協議会設置要綱第7条の規定により出席者が委員の過半数に達しておりますので、成立していることをご報告いたします。

### 2. 委員紹介

三上補佐：平成30年度の第1回の会議ですので、関係機関におかれましては、異動等に伴い委員変更等もございます。新規の委員さんにつきましては、委嘱状を開催通知と併せて送付してあります。  
また長南町地域公共交通活性化協議会設置要綱第3条第1号の町長が指名するものとして会長でありました副町長ですが、不在のため、新たに町長が指名

するものとして社会福祉協議会事務局長を委員として委嘱いたしましたので報告いたします。

改めまして、平成30年度地域公共交通活性化協議会委員を紹介いたします。名簿の順に照会紹介させていただきます。

(委員紹介)

### 3. 町長あいさつ

三上補佐：つづきまして、本日は、平野町長に出席いただいております。

平野町長より、挨拶を申し上げます。

平野町長：本日は、大変、お忙しい中、会議に出席いただきましてありがとうございます。

現在、公共交通を、めぐる社会情勢は、高齢ドライバーの事故等がニュースでもとりあげられております。どうしても自家用自動車に依存せざるおえない状況化におかれていたことを考えますと、自家用車に依存しなくても持続可能な交通体系を築いていくことが公共交通施策の責務だと感じております。長南町の交通施策につきましては、昨年、デマンド乗合タクシーを1時間延長し、巡回バスにつきましては、効率性、利便性を考慮し再編し平成30年1月4日から実証運行しております。

また圏央道の利活用や利便性向上を図るため、関係市（木更津市、茂原市）と広域連携により、茂原駅、長南駐車場、金田バスターミナルを経由し木更津アウトレットまで高速バスの実証運行もしております。様々な交通施策を実施しているところでございますが、本日も、より良い交通体系を目指すべく委員の皆様方には忌憚のない、ご意見を願いたします。

三上補佐：ありがとうございました。

次に、長南町地域公共交通活性化協議会、金坂副会長より挨拶を申し上げます。

### 4. 副会長あいさつ

金坂副会長：会長であった副町長が、不在という事で代表いたしまして挨拶をいたします。

本日は、大変、お忙しい中、会議に出席いただきましてありがとうございます。また本年から新規に長南町地域公共交通活性化協議会の委員として委嘱された方々も、よろしく願いたします。

さて本日の議題として、例年、国庫補助金の関係で協議頂いておりますデマ

ンド乗合タクシーの計画と昨年、皆様に協議頂いた巡回バスについてです。事務局からも説明が、このあとございますが、巡回バスが、その後、利用状況等がどうなっているか、皆様も気になるころだと思います。

本日も、より良い交通体系を目指すべく委員の皆様方には忌憚のない、ご意見をお願い、いたしまして、あいさつとさせていただきます。

本日もよろしくお願いします。

三上補佐：金坂副会長ありがとうございました。

それでは、議事の方に入らせていただきます。進行につきましては、長南町地域公共交通活性化協議会設置要綱第7条第4項の規定により、会長が議長になります。会長が選任されるまでの間、要綱第6条第2項の規定により金坂副会長に議長をお願いいたします。

金坂副会長：それでは、会長が選任されるまでの間、議長を務めさせていただきます。

委員の皆様どうぞ、よろしくお願いします。

## 5. 会長の選任について

金坂副会長：次第に基づき進行させていただきます。

会長の選任については、長南町地域公共交通活性化協議会設置要綱第5条により、委員の互選により定めることになっております。

どなたか、立候補される方、または推薦される方おりますでしょうか？

大木委員：私も3年前から公共交通会議に出席させていただいておりますが、高齢化社会がどんどん進んでまいりますと、デマンドタクシーそれから巡回バスのウエイトが非常に高くなってくると思います。そんななかで、野口社会福祉協議会事務局長が出席しておりますので、出来ましたら社会福祉協議会事務局長の野口さんをお願い出来ればと思います。

金坂副会長：只今、社会福祉協議会事務局長であります、野口委員にお願いしたいという意見がございましたけども他に意見はございますか。

金坂副会長：それでは他に意見がございませんようですので、野口委員が会長になることについてご異議ございませんでしょうか。

委員一同：異議なし

金坂副会長：それでは、会長につきまして、新たに野口会長が選任されました。  
ここで議長の座を降りさせて、いただきます。  
皆様、ありがとうございました。

三上補佐：金坂副会長ありがとうございました。  
野口会長は、会長席に移動をお願いします。

## 6. 議題 (1) 生活交通確保維持改善計画について

三上補佐：それでは、議事の方に入らせていただきます。進行につきましては、長南町地域公共交通活性化協議会設置要綱第7条第4項の規定により、会長が議長になります。  
野口会長、よろしくをお願いします。

野口会長：それでは只今、皆様の選任ということで私が会長ということですが、なにぶんにも初めてでございますし、皆様のご協力をいただくなかで、会議の方を進めさせていただきます。  
さっそくですが議題に入らせていただきます。  
議題(1)平成30年度生活交通確保維持改善計画について事務局説明をお願いします。

事務局風戸：資料1に基づき説明

野口会長：説明が終わりました。生活交通確保維持改善計画について本日、この協議会で承認を頂いて6月末までに、国土交通省を提出したいという内容でした。  
ここでご意見、ご質問等あればお伺いしたいとおもいますがいかかですか。

森川委員：2点ほどお伺いしたいんですけど、今、説明のなかでゆたかタクシーさんと長南タクシーさんで1台ずつというお話がありまして、これって一度に3人きたときに各会社で2台目が出せるのかどうか1点目です。  
それから確認なんです、国からの補助の表が2,689千円ですが、このお金はあくまでもデマンドだけなんですよね。町の巡回バスに出ているようなものがあるかどうか、その2点をお願いします。

事務局風戸：まず運行台数2台という話で各社1台ずつですが、同じ時間帯に同じ事業者さんが3台同時に出すとかできないので、基本的には事前予約にしているのは配車を組むために事前予約としているところです。そういった形で運行台数1台事前予約のなかで調整いただいております。2点目の国庫補助の上限額の算定なんですけど、こちらはデマンドにおける計画ですので、デマンドに対する補助と認識していただければと思います。あくまでも国庫補助の上限額なので、この金額が入ってくるという事ではないと認識いただければと思います。長南町は、デマンドを活用していますが茂原市はフィーダー計画は茂バスを活用しています。

森川委員：運行台数2台のところをもう一度聞きますが、そういうケースはあるのかそれとも2台の枠はあるのか。そういう時は2台使っても良いのか、その説明をお願いします。

事務局風戸：基本的には、運行台数1台というのは、こちらの生活交通確保維持改善計画によって縛っています。道路運送法上は、タクシー会社さんの方で乗合に係る車両の届出を出していれば、届出している車両に関しては運行できます。あくまでも運行台数は、生活交通確保維持改善計画で縛っているという認識で頂ければと思います。2台増やせないんですかという話ですがこちら国庫補助上限額が268万ですが、既に250万円を喰っておりまして、運行台数を増やしても国庫補助の上限が増えないので、確かに2台必要な時間帯もありますけども、今のところは町として1台で運行させていただければと思います。

森川委員：分かりました。たくさん重なるようになったらまた考えて頂きたいと思います。

平野委員：デマンドなんですけど、乗合で乗っているというのは結構あるんですか。

事務局風戸：デマンドなので乗合で運行するのが趣旨ですが、乗合の状況、乗合率ですが10回運行すれば、そのうちの1、2回は、他のお客さんと乗合っている状況です。

平野委員：1人か2人ぐらいということ。

事務局風戸：そうです。また乗合を促進するためにペア割を導入しております。

平野委員：もう一点よろしいでしょうか。

今、小湊で巡回バスをやっているんですけど、デマンドがセダンでなくてワンボックスタイプの10人乗りとかを採用すると、今の巡回バスと今のデマンドのセダンの1人か2人乗るっていうのと、それを融合してワンボックスで時間指定で、より多くの人との乗合で、効率よくやった方が私は良いと思う。新しく巡回バスをやっている新しく逆コースみたいなやり方になって、利用者があまり利用しないコースも出てきているし、それだったらある程度予約を取った上でワンボックスで10人乗らなくても3人か4人乗って同じ方向で同じ目的で乗れば効率が良いのかなと思いますが、その辺考えているんですけどワンボックスという考えはどうなんですか。

事務局風戸：今、所長さんの方から意見をいただきました、デマンドは、いろんなタイプがございまして監督官庁の国土交通省、千葉県交通計画課の池田委員さんも詳しいですけど、予約に応じてバス停からバス停のみを運行するデマンドもあれば、予約に応じて町内どこでも行けるようなデマンドもあります。長南町の場合ですとフルデマンドを導入しております。フルデマンドというのは予約に応じて町内どこでも行けます。所長さんの方から予約に応じてという事ですが、ワンボックスで巡回バスとの融合となりますとバス停からバス停というタイプで共通乗降場所が決まってしまうようなタイプになってしまいます。実際、勝浦市なんかは、このような運行形態で運行しています。巡回バスとデマンド乗合タクシーを合体させてワンボックスでの運行形態になりますと、フルデマンドを導入してしまっていると逆に、降りる場所が限られるとか逆にサービス低下になります。このような新しい交通体系を位置づけるとなりますと、路線バス、高速バス全ての交通モードの整合を図らなければなりません。少なくとも地域公共交通網形成計画を策定したんですけども、5カ年の計画になっているんですけど、巡回バスについて、利便性、効率性のなかで見直していくと位置づけたので、それについては新しい計画を作るなかで、あらゆる交通モードの整合を図るなかで、検討すべきなのかなと思います。

野口会長：新しい計画を作るなかでという事でしたが、平野委員よろしいでしょうか。

平野委員：分かりました。この話はこれで終わりにしておきます。

野口会長：他には大丈夫でしょうか。

それでは、生活交通確保維持改善計画について協議会で承認するという事によろしいでしょうか。

委員一同：異議なし

野口会長：ありがとうございます。

それでは、生活交通確保維持改善計画については、6月末に国土交通省へ提出させていただきます。

## 議題（２）巡回バスの実証運行の報告について

野口会長：続きまして議題（２）巡回バスの実証運行の報告についてですが、事務局、説明をお願いします。

事務局風戸：資料２に基づいて説明

野口会長：説明ありがとうございます。

今回の協議事項も説明をいただいたんですけど、いま実証運行している経路で、これからもやっていきたいということですよ。

今の説明の中で、ご質問・ご意見等をお願いしたいと思います。

平野委員：私ども、小湊が実際に運行してまして、まず一点が笠森・蔵持ルートなんですけど、このルートを変えたためにですね、蔵持の方がですね、街中の商店街を降りて利用するという事で逆に使いづらい。さっき観光路線にも使えるという説明があったんですけど横浜7時に出る観光バスに8時に長南に着く、それが、笠森霊園に接続すると唄っているんですけど、そんなに早く来る人はいない、ゴルフはあるかもしれないんですけど、11時のやつは、これも少し遅い。利用客があるのかというとやはりない。そうするとやはり地元の人に利用できるようなバスにしてあげないといけない。本当に乗る人というのは、自家用車がなくて病院にいかなくちゃいけない人は何人もいないんですよ。こんな過疎の町で利用するとしたら何人もいない。

この大きな巡回バスが必要かといったら必要ないと思う10人乗りぐらいで良いと思う。それで今の現状を見ますと使いづらくなったっていうのが蔵持・笠森コース。

上永吉の坂本の路線を伸ばしたというのは、何人かお客さんが茂原まで行く

人が坂本地区の人が、上永吉でバスに乗れて茂原まで行けるので確かに利便性が良くなった。それと東の方は、特に一番便利に出来ているんですよ。ようするに朝きて、八時に病院に行けて11時頃に帰る。これが一番理想なんですよ。どこの地区も病院にやっぱり8時か9時頃に入って11時頃に帰りたいというのが理想の路線なんです。それを一台の車で全部やるって言うても無理なところがあるので、やっぱり利用者の多い路線に持っていくというのは良いと思うんですけどね。その辺、蔵持の人が、今まで街中で利用していた人が何人かいて、その方が逆になってしまって使いにくいということがあるので、観光目的が地元の少ない人たちのために巡回バスを使うのが今後の進め方として、もう一度、再考にさせていただければと思っております。

事務局風戸：今、所長さんの方から蔵持・長南地区コースについては、街中を経由しないがゆえに、使いにくいという話がありました。こちら接続を最初にとるという事ですが、所長さんは、接続よりも生活路線を重視した方が良いという趣旨でございます。これは当初、所長さんと話をするなかで、横浜からくる最初の高速バスが8：10分、第2便が11：55分なんです。8：10分の後が11：55分なんで、元々、利用者が少なかったのが観光路線に、あてたいというようななかで、このダイヤはいたしかたないのも変ですが、これしか設定できない部分もあります。また高速バスの接続を捨てて午前中となってしまうのが、いれられるのが東コース、坂本地区コースの間、休憩48分なんですけども、こちらバス運転士改善基準等あるなかでバスドライバーの拘束時間を増やしたくない。休憩時間は、4時間のうち30分以上、さらに30分の休憩も10分以上の休憩時間じゃないと休憩とカウントされないというドライバー目線の縛りと高速バスダイヤの11：55分という、どうしてもこらがベストの施策になってしまうというところだけ理解していただければと思います。また実証運行を始めたばかりで霊園からの利用者も見れているので霊園利用の方が、霊園に一度来ることにより巡回バスが出てると気付いて今後、増えていくかもしれないのでしばらくは、これで運行させていただければと思います。

田中課長：今、担当の方から説明があったんですけど、地域公共交通網形成計画を策定する時に、我々、細かなダイヤの設定が分らないので平野所長さんにも入っていただきました。そういったなかで10便あったものを9便という形で、担当から説明があった通り、ドライバーにも過密労働にならないように設定したんですけども、蔵持・笠森ルートが、いかがなものかという事でした。これを作る時に国土交通省の関東運輸局からご指導をいただくなかで、地域に密



着した巡回バスは一義的なんだけれども、観光も盛り込んでいくんだという指針等も出ている。我々も十分、勘案したなかで観光目的も入れた。今言ったとおり徐々にですね笠森観音から対岸のアクアラインに帰るお客さんも出てきています。まだこれは実証運行ということで、実証運行という期間についてはおおむね1年、春、夏、秋、冬、それぞれシーズンのなかで様々な動向が出てくると思います。そうした状況を通じまして来年、本格運行に持っていければと思います。あくまでも平野所長さんと協議するなかで、トライしてみようと所長さんの意見をいただいたように記憶していますので、これがまさしく実証運行を実践しているということでご理解ください。

平野委員：分かりました。

一点だけ、茗荷沢経由で蔵持入るやつ、街中経由で熊野神社で回して帰る。乗ってないところを走らせてもしょうがないんでね、蔵持の人が、茗荷沢入って町で買い物できて、乗れないんですよ。茗荷沢回って帰るんで。だったら町中よって町中帰るように一年後ぐらいには変えられるんだったら変えてほしい。

事務局風戸：こちらの新規区間については確かに利用者がいないんですけど、11:50分の便は町中を経由しないで茗荷沢十字路から帰ってしまうので利用者のなかには蔵持の人が道脇歯科に行けないとかもあるかと思うので直せるところは直していきたいと思います。

また担当として申し上げますが、抜本的にダイヤをいじれないんですよ。一個、一個の経路が何分であるか、路線バスの接続、高速バスの接続、バス停間の距離だとかそういった部分がずれてしまうと、またコンサルタントを入れてダイヤの整合を全部図らないといけないので、担当レベル、実務レベルで直せる修正であれば、取り入れていきます。

野口会長：今、田中課長から一年を通してみて、また改められるところは、改めてみて平野所長さんからは、観光か生活路線かみたいなどころもありましたけども、とりあえず一年間の経過を見てまた、考えていくというような内容でした。他に何かありますか。

森川委員：蔵持地区に一人暮らしの女性がいますが、今まで乗っていたのと逆回りだと言うんですよ。逆回りでも長南の停留所には行けるんだから逆回りでも一回乗れば覚えているかな、今言ったように高速バスの出発とか人数を見るぐらいの人だから多分、いつもこの辺で乗るかなと覚えてくれていると一回乗ったという話を聞いたんですけど、そういう細やかなところがあるのでそれはそれで。一回確認したいのは、長南バス停で降りる人が多いじゃないですか車庫で、ということは病院も使っているんでしょうね。連結して小湊さんのバスにつながっている例がどのくらいあるのか。巡回バスを使ってさらに接続の利用はどれくらいあるのか分かれば教えていただきたい。

それから、今後のことで500万円以上かけていますけども、1万3千人が2500人でもう、5分の1ですよ。利用料金が100円ですから、2500人ですから、25万円しか収入がないんですよ。これを黒字にするためには5万人の利用者が必要で、この会議の報酬の事を言っているわけではないんですが、一人あたり5千円が支払われているんですよ。17人で8万5千円で年3回やったら、バスの運賃収入が入ってしまう。それくらいわずかな収入なんで今後の考え方で、どこまで、その協議運賃、100円を80円、50円にしてもあまりインパクトはないと思うんですが、0円には出来ないと思いますが10円、1円バスにしても25万円が2、3万円に減るだけでそういうインパクトがある事業が出来るのかなと思うんですが、とういうことで今後については利用者は、そんなに増えるとは思ってはいないですが維持していくという意味を見出していければと思います。

事務局風戸：一点目として森川委員さんの方で、長南車庫での接続利用がどれだけあるかという事なんですけど、乗換案内ということで20分以内程度接続については運行時刻表に接続案内ということで載せてはあるんですが、利用者数については把握できていない。長南車庫にいて待っていればバスは、必ず来るので正直なところ、どの路線に乗ってどうか把握していないところがございます。あと2点目の料金の収入の部分なんですけど、他の自治体なんかだと収支率という形で、運行経費に対してどれだけ収入が入ってくるかといった収支率を運行継続条件にしている自治体もあります。長南町ですとすぐには利用者が伸びない。皆、利用者が自家用自動車に依存しているのが、徐々に運転できなくなってくれば利用者は伸びてくる可能性もありますので、収支率とか計算してそのなかで料金まで計算するのも良いかと思うんですが、まず巡回バスに乗っていただけて体験していただいて、便利だなと思っていただきたいきっかけを作るためにも利用促進策を導入していければと思います。

田中課長：付け足しですが、森川委員さんがおっしゃっていた2点目の収支率ですが地域公共交通網形成計画を平成28年度に作った時に、一番の問題点は巡回バスを存続させるか否かという事で我々としては、多少赤字の部分であっても必要最低限の社会福祉の一貫だという形で、今免許の返納者だとか、今のうちに皆さんに巡回バスを認識していただいて長南町、過疎地域ですので依存せざる負えないような周りの環境、経済状況の推移のなかでなっていくことが当然、見えていくと。国交省の会議にも係長や担当が行っててなんですが観光地の甲府市でも観光地でもあるにも関わらずバスが消えていると路線バスがなくなっていくなど、パンフレットを発行してます。これについては、路線バスを維持していくために、なるべく乗ろうという趣旨です。その結果が如実に表れているんですけど、休止した坂本地先の茂35系統については休止されることで、坂本沿線の方はありがたく巡回バスにのっていただいているというような状況が見られます。そういったなかで、これについては長い目で巡回バスを金額だけで判断するわけではなく、これからの長南町の将来像をとらえた場合に、交通体系モードの巡回バスというのは必要不可欠高齢化ですので、農家が多いですので軽トラだけだと、茂原警察の方、見えていますけども免許返納していただいて危ないですので出来るだけ返納して頂いて公共交通機関を使いましょうとPRしていただいております。

そういった社会の風潮にのっとったなかで、出来るだけ公共交通機関というのは無くてはならない足なんだよと認識いただいたなかで存続していきたいと考えております。

森川委員：良くわかりました。

お願いしておきます。私、議会に行くとき蔵持から乗ると、たまに一人乗っていることもありますけども、15周年もうちょっとですけどもキャンペーンでも打って皆さん乗ってみましょうと。このなかでも過半数乗っている人がいるかどうか利用者代表でも、どのくらい利用しているか役場の職員でもぜひ乗ってみてください。私も行ったら帰るバスがないんですよ。

というような事でキャンペーンでも打ってほしい。

野口会長：他にありますか

大木委員：さっきの公共交通の重要性についてですが、私は、55歳くらいの時に体調を壊しまして実際に小湊さんのバスで通勤しました。毎朝、バスに乗って10年

間定期券で通ったんです。定期券についてサラリーマンは実費支給の企業が多いんですが、ところが皆さん車で茂原に出て千葉方面で務める人は、その駐車料金までは保証してくれないんです。いずれ年数がたってくると当然のことながらバスに乗るような時期が来るんです。その辺すごく公共交通ってのは大事じゃないのかな。

今、年寄りの方デマンドタクシーを利用してますけども、小湊さんのバスを利用して茂原の病院から帰ってきて、それで降りてデマンドを利用している方も結構いるんですよ。今の時点で乗っている人がいないからといって諦めてしまうのは、あんまりにも簡素化になりすぎかなと思います。当時、私は定期券ナンバーは3つしか変わらなかった。半年経ってから定期券を買うといつてもナンバーが3つしか変わらなかった。三川行のバスに誰が乗るとかそういうつながりがあった。年齢的にいうと一緒に乗っていた方々はお亡くなりになっている。そういう面で考えて、今車に乗れてても明日は車に乗れなくなってしまうと考えると公共交通は重要性が出てくるのかと思います。

野口会長：ありがとうございます。皆さんが年をとれば、その時はバスを利用するんじゃないかと思えますけど。

平野委員：高齢者が増えてきて団塊の世代が10年後には、80歳になる。それでその時になって免許を返納して巡回バスで用が足りるのかという話を職場です。路線バスと巡回バスで免許証を返納した人が生活が出来るのか、デマンドタクシーがあったって長南町のどこに買うところがあるのか。町として考えてもらいたいのは、リトル町と言うのを考えてもらいたい。商店街を作っていたきたい。茂原に出ないと用が足りないというのが、そもそもおかしいんです。千葉薬品さんとコメリさんが来られてたひのまるのあたりに一つのゾーンを作ってもらって、そこまで行けば用が足りるという。そこまで行けば、茂原に出る人は行っても良い高速バスに乗りたい人は乗っても良い、そこで買い物できる人は1時間、2時間待って巡回バスで帰る。私は、あそこに一つの街ができればそれで良いと思うんですよ。そういう住みやすい街を作る計画でもしてくださいよ。そうすれば巡回バスでも利用者がどんどん出る。

平野町長：今、所長さんのおっしゃったとおりと思ってます。私も就任した直後は、町中で買い物出来る店舗をなんとか誘致したいという事で、ずっとやってきました。やってきましたが、企業は、商機があるような地域でないとか、進出してくれない。やっとな手を挙げてくれたかなと思っても保留になっている。そういった形で、これから高齢者になって、巡回バス、路線バス、デマン

ドタクシー、特にデマンドと巡回バスは町内しか走れないので、もし長南町にそういった施設があれば、十分に活用できるので、そういったことで誘致に向けて頑張っていきたいと思ってます。また運転が出来なくなってくる方が増えて来ても、何とか地元で買い物できる仕組みは常に考えているのでご理解いただければと思います。

野口会長：良い意見を頂きました。

それこそ、小湊の平野所長さん、大木委員さん、森川委員さん良い意見を頂いておりますので、それを含んだなかで反映できるところは、反映して本格運行へつなげていければと思います。

この案件については、これでよろしいでしょうか。

それでは、その他に、はいらさせていただきます。

## 7. その他

野口会長：その他ですが事務局なにかありますか？

事務局風戸：

- ・高速バスの実証運行について報告
- ・次回の協議会の日程は平成30年10月25日13：30～
- ・報酬は後日振り込み

野口会長：それでは、本日予定された議題については、終了しました。

皆様のご協力で、スムーズな議事の進行ができましたことを感謝いたします。これで、議長の任を解かせていただきます。進行については事務局にお返しします。よろしくお願いいたします。

## 8. 閉 会

三上補佐：ありがとうございました。

以上で、本日の長南町地域公共交通活性化協議会は、終了いたします。  
お疲れ様でした。

閉会 15：02